

# 県立高等学校再編整備の後期実施計画

(平成19年度～平成22年度)

平成18年2月

茨城県教育委員会

## 県立高等学校再編整備の後期実施計画

県立高等学校の再編整備については、国際化、情報化など社会の変化、能力・適性、興味・関心、進路など生徒の多様化、中学校卒業生数の急激な減少などに適切に対応するため、茨城県高等学校審議会の答申（平成12年2月）を踏まえ、平成12年7月に教育庁内に茨城県高校教育改革推進会議を設置し、中学校・高等学校関係者、経済界の代表者、学識経験者など様々な県民の方々から聴取した意見などを参考にしながら検討を進めてきました。そして、平成13年9月に、県立高等学校の再編整備についての基本的な方向を示した「県立高等学校再編整備の基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定し、さらに、この基本構想に基づき、平成14年6月には平成22年度を目標年度とした学校・学科の在り方や各通学区の基本的な整備の方向についてまとめた「県立高等学校再編整備の基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定しました。

この基本計画に基づき、平成15年2月に、平成15年度から平成18年度までに実施する「県立高等学校再編整備の前期実施計画」（以下「前期実施計画」という。）を策定し、これまで単位制高等学校など新しいタイプの学校の配置、生徒のニーズなどに対応した学科改編、統合による学校規模の適正化などを計画どおり実施してきました。

さらに、平成19年度から平成22年度までに実施する具体的な実施計画の内容について、基本計画に基づき検討を進め、このたび本書のとおり、「県立高等学校再編整備の後期実施計画」（以下「後期実施計画」という。）を策定しました。策定に当たっては、前期実施計画の実施状況を踏まえるとともに、新しいタイプの県立高等学校の新入生及びその保護者を対象としたアンケート調査の結果や、県立高等学校の再編整備についての有識者、中学校・高等学校の校長、保護者などから聴取した意見なども参考にしました。

なお、平成17年7月に、県立高等学校の通学区域を廃止し、全県一学区としましたが、大多数の中学生は一定の生活圈・行動圏の中で学校選択する傾向にあり、志願の状況に大きな変化はないと見込まれることから、前期実施計画同様、多様な特色ある高等学校を通学できる範囲の中に適切に配置するといった基本計画の考え方にに基づき策定しました。

## 内 容

- 1 全日制課程の単位制高等学校
- 2 総合学科の高等学校
- 3 中高一貫教育校
- 4 学科改編
- 5 総合選択制
- 6 5年一貫看護師養成教育
- 7 統合
- 8 定時制課程
- 9 課程別県立高等学校数

## 1 全日制課程の単位制高等学校

### (1) 基本的な考え方

ア 中学生の学校選択幅の拡大や生徒の個性を生かした進路希望の実現を図る観点から、前期実施計画の実施状況を踏まえ、配置バランスなどにも配慮して導入を進める。

イ 専門学科の高等学校にも学校の実状などを考慮して導入することに努める。

### (2) 全日制課程に単位制を導入する高等学校

実施年度	対象高等学校	設置学科	旧通学区
平成 19 年度	銚田第一	普通科	第 3
平成 20 年度	新校（磯原・北茨城）	普通科	第 1
平成 20 年度	勝田工業	総合工学科	第 2
平成 21 年度	新校（石下・上郷）	普通科	第 5

## 2 総合学科の高等学校

### (1) 基本的な考え方

入学後に自己の将来を深く考え、自分で将来の進路を決定できる総合学科の役割の重要性から、前期実施計画の実施状況を踏まえ、配置バランスや系列にも配慮して設置を進める。

### (2) 総合学科に改編する高等学校

実施年度	対象高等学校	設置系列	旧通学区
平成 21 年度	猿島	人文科学，生物資源，緑地デザイン，情報ビジネス，ライフデザイン	第 5

設置系列の名称及びその詳細については、現段階におけるものであり、今後も検討していくこととする。

## 3 中高一貫教育校

### (1) 基本的な考え方

ア 6年間の計画的・継続的な教育が可能となる中等教育学校及び併設型中高一貫教育校を、それぞれパイロットスクールとして設置する。

イ 中等教育学校及び併設型中学校の通学区域は、県内全域とする。

### (2) 中高一貫教育を導入する高等学校

実施年度	対象高等学校	改編の内容（数字は学級数）	旧通学区
平成 20 年度	並木	中等教育学校 （前期課程 4，後期課程(普通科・単位制) 4） 募集学級数は 4（開設当初は 3）	第 5
平成 22 年度	緑岡	併設型中高一貫教育校 （併設型中学校 2，併設型高等学校(普通科) 6） 募集学級数は併設型中学校が 2，併設型高等学校が 4	第 2

#### 4 学科改編

##### (1) 基本的な考え方

ア 時代の進展や生徒のニーズに対応した魅力ある学科への改編を、配置バランスに配慮して進める。

イ 学科改編の対象にならなかった学校であっても、今後の国の動向などを勘案して、学科改編を行うこともある。

##### (2) 学科改編を実施する高等学校

実施年度	対象高等学校	対象学科	改編の内容（数字は学級数）	旧通学区
平成 19 年度	日立第二	国際関係に関する学科	国際科 1 英語科 1	第 1
平成 19 年度	笠間	芸術に関する学科	普通科工芸・デザインコース 1 美術科 1	第 2
平成 19 年度	鉾田農業	農業に関する学科	食品化学科 1, 情報経営科 1 食品技術科 1, 流通情報科 1	第 3
平成 19 年度	石岡第二	家庭に関する学科	家政科 1 生活デザイン科 1	第 4
平成 20 年度	勝田工業	工業に関する学科	機械科 2, 電子機械科 2, 電気科 2 総合工学科 6	第 2
平成 20 年度	三和	普通科	普通科 4 普通科 3, 普通科ヒューマンサービスコース 1	第 5
平成 21 年度	土浦第三	商業に関する学科	商業科 2 商業科 1, 会計ビジネス科 1	第 4

改編の内容の学科の名称，学級数及びその詳細については，現段階におけるものであり，今後とも検討していくこととする。

#### 5 総合選択制

##### (1) 基本的な考え方

普通科と職業学科を併置する学校において，学科の内容などに配慮して総合選択制を活用する。

##### (2) 総合選択制を活用する高等学校

実施年度	対象高等学校	対象学科	旧通学区
平成 20 年度	潮来	普通科 商業に関する学科（商業科） 家庭に関する学科（家政科）	第 3
平成 22 年度	新校 （常陸大宮・山方商業）	普通科 工業に関する学科（機械科，情報技術科） 商業に関する学科（商業科）	第 2

総合選択制とは，複数の学科を設置する学校において，各学科での学習を深めるとともに，学科の枠を越えた自由選択科目群を設けることにより，生徒の興味・関心，適性などを生かした選択履修を可能とするものである。

## 6 5年一貫看護師養成教育

### (1) 基本的な考え方

ア 衛生看護科と専攻科における専門科目及び実習の重複を解消し、普通科目を多く取り入れた学習ができるようにする。

イ 専攻科の入学選抜がなく、5年間を計画的に看護師試験（国家試験）の学習に取り組むことができるようになる。

### (2) 5年一貫看護師養成教育を導入する高等学校

実施年度	対象高等学校	設置学科	改 編 の 内 容	旧通学区
平成 19 年度	岩瀬	衛生看護科	5年一貫看護師養成教育の導入	第 5

## 7 統合

### (1) 基本的な考え方

ア 学校の適正規模は、1学年当たり4学級（生徒数160人）から8学級（生徒数320人）までとする。

イ 適正規模の維持が見込まれない学校及び統合することにより学校の教育力の向上が期待される場合は、統合を検討する対象とする。

なお、統合対象にしなかった学校であっても、学校の状況によっては、後期実施計画期間中に統合対象とすることがある。

ウ 統合する際には、新しい学校を創設するという観点から、充実した教育を展開できるよう教育条件の整備を図る。

### (2) 統合する高等学校

実施年度	対象高等学校	設置学科(数字は学級数)	改編の内容	校地予定	旧通学区
平成 19 年度	石岡第一 八郷	普通科 6 園芸科 1 造園科 1	弾力的で特色ある教育課程を編成	石岡第一	第 4
平成 20 年度	磯原 北茨城	普通科 6	単位制を導入	磯原	第 1
平成 20 年度	岩井 岩井西	普通科 8	弾力的で特色ある教育課程を編成	岩井	第 5
平成 21 年度	那珂湊第一 那珂湊第二	普通科 3 会計ビジネス科 1 起業ビジネス科 1 情報ビジネス科 1	商業科の学科改編 福祉教育を導入	那珂湊第一	第 2
平成 21 年度	石下 上郷	普通科 4	単位制を導入	石下	第 5
平成 21 年度	境 境西	普通科 7	弾力的で特色ある教育課程を編成	境	第 5
平成 22 年度	常陸大宮 山方商業	普通科 3 機械科 1 情報技術科 1 商業科 1	総合選択制を導入	常陸大宮	第 2

設置学科の名称、学級数及びその詳細については、現段階におけるものであり、今後も検討していくこととする。

(3) 新高等学校設置の準備及び統合対象高等学校についての配慮事項

ア 新高等学校設置のための準備作業

統合による新高等学校設置のために、「新校準備委員会」を設置し、次のような事業を行い、円滑な新高等学校の開校を図ることとする。

- ・校名の検討，校訓，教育目標，校章，校歌など大綱の決定
- ・教育課程の編成，教科書採択，入学者選抜などの事項の検討及び決定
- ・教務規定や生徒指導規定など諸規定の検討及び決定
- ・広報活動 など

イ 統合対象高等学校の在校生についての配慮事項

統合対象の高等学校の在校生については，それぞれ統合前の高等学校に在籍し，入学時の教育課程を履修して卒業することとする。

その際，在校生の学習希望や進路希望などに適切に対応していくことに配慮し，次のような対応をしてその教育力の維持に努めることとする。

- ・関係する複数校が合同で文化祭，体育祭など学校行事を実施すること。
- ・関係する複数校が合同で部活動を実施すること。
- ・新高等学校に新たに設置した特色ある科目などを受講できるようにすること。
- ・新たに整備した施設・設備を供用すること。 など

8 定時制課程

(1) 基本的な考え方

多様な生徒のニーズに応えるため，前期実施計画の実施状況を踏まえ，定時制課程の単位制高等学校（単独校）の設置を進める。

(2) 定時制課程の単位制高等学校に改編する高等学校

実施年度	対象高等学校	設置学科	改編の内容（数字は学級数）	旧通学区
平成 20 年度	結城第二 （全日制課程）	普通科	3 部制（午前部 1，午後部 1，夜間部 1） の定時制課程，単位制を導入 下館第一の定時制課程は募集停止	第 5

9 課程別県立高等学校数

項目	年度		
	平成 14 年度	前期実施計画 完成年度	後期実施計画 完成年度
全 日 制 課 程 の 高 等 学 校 数	110 校	104 校	96 校
うち定時制課程併置の高等学校数	11 校	10 校	9 校
昼夜開講の定時制課程の単位制高等学校数	-	1 校	2 校
定時制課程通信制課程併置の高等学校数	1 校	1 校	1 校
全 県 立 高 等 学 校 数	111 校	106 校	99 校

全日制課程の高等学校数及び全県立高等学校数は，本校のみの学校数（中等教育学校を含む。）であり，分校は含まない。

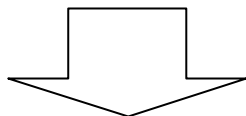
# 付 属 資 料

- 1 県立高等学校再編整備の検討及び計画策定過程
- 2 県立高等学校再編整備に係る意見聴取等の経緯
- 3 前期実施計画の実施状況
- 4 聴取した意見等についてのまとめ
  - ( 1 ) 新しいタイプの県立高等学校についてのアンケート調査の結果
  - ( 2 ) 県立高等学校の再編整備についての意見聴取の結果
- 5 県内中学校卒業生数及び高等学校等進学者数の推移
- 6 県内中学校卒業生数・県立高等学校進学者数・県立高等学校数の推移

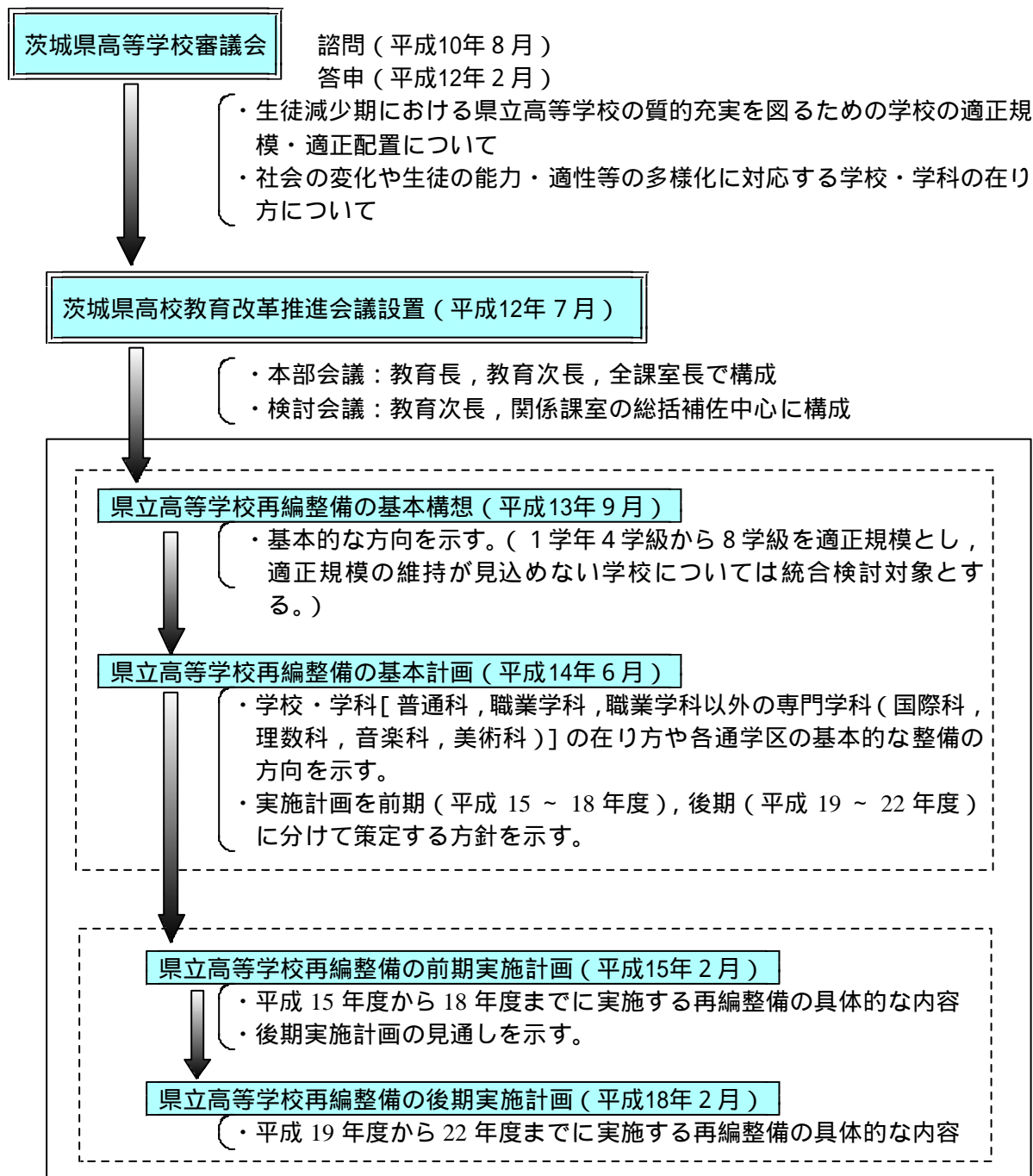
# 1 県立高等学校再編整備の検討及び計画策定過程

## 県立高等学校再編の背景

社会の急激な変化 : 国際化, 情報化, 少子・高齢化, 科学技術の発展や経済構造の変化等  
生徒の多様化 : 高等学校等進学率 (97.8% : H17年3月卒)  
中学校卒業者の減少 : 約5万人 (H元年3月) 約3万人 (H22年3月)



## 県立高等学校再編整備の計画策定過程



## 2 県立高等学校再編整備に係る意見聴取等の経緯

### 茨城県高等学校審議会の諮問（平成10年8月）

	実施内容	対象者
H10	審議会における参考人意見聴取	有識者(大学), P T A関係者, 中・高校教諭等
H11	審議会における参考人意見聴取	特色ある高校の校長(農業科, 工業科, 商業科, 総合学科, 単位制等)

### 茨城県高等学校審議会の答申（平成12年2月）

H12 H13	茨城県高校教育改革推進会議による参考人意見聴取	有識者(大学, 産業経済界, 芸術等), 市町村関係者, P T A関係者, 高校卒業生, 中・高校長等
------------	-------------------------	--

### 県立高等学校再編整備の基本構想の策定（平成13年9月）

H13	教育懇談会（地区別）における意見聴取（5地区：県北，水戸，鹿行，県南，県西）	有識者(大学, 産業経済界等), 市町村関係者, P T A関係者, 中・高校長
H13	教育懇談会（中央懇談会）における意見聴取	高校生, 高校卒業生
H13	基本構想等に係る県政モニターアンケート	県政モニター

### 県立高等学校再編整備の基本計画の策定（平成14年6月）

H14	基本計画に係る通学区別説明会（5通学区）（基本計画公表後に開催）	市町村教育長, 中・高校長, P T A関係者
H14	インターネットによる意見募集（基本計画公表後に実施）	インターネット閲覧者

### 県立高等学校再編整備の前期実施計画の策定（平成15年2月）

H15	前期実施計画に係る教育関係者説明会（前期実施計画公表後に開催）	市町村教育長, 中・高校長等
H15	前期実施計画に係る地区別説明会（統合等）（前期実施計画公表後に開催）	関係高校の保護者・同窓会員, 関係中学校の保護者等（高萩, 里美, 大子, 大宮, 鹿島, 江戸崎）
H17	新しいタイプの県立高等学校に関するアンケート調査（前期実施計画実施の全日制単位制・総合学科の7校）	各関係高校の新生, 保護者
H17	県立高等学校の再編整備についての参考人意見聴取	有識者(大学, 産業経済界, 市町村等), P T A関係者, 中・高校長等
H17	県立高等学校再編整備の前期実施計画に関する実施状況調査（前期実施計画対象の20校）	各関係高校の校長, 教諭, 学校評議員

### 県立高等学校再編整備の後期実施計画の策定（平成18年2月）

### 3 前期実施計画の実施状況

( 数字は、旧通学区を示す。( )は、学科名を示す。)

実施年度 再編内容	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
全日制課程の単位制高等学校	太田第一 (普通)	日立第一 (普通) 水海道第一 (普通)	水戸第一 (普通)		4校
総合学科の高等学校	取手第一	大子清流 鉾田第二	江戸崎総合	高萩清松	5校
中高一貫教育校	小瀬(普通) 美和・緒川・ 御前山中学 校と連携				1校
学科改編	古河第二 (福祉)	水戸商業 (商業) 竜ヶ崎第二 (商業,家政)	古河第一 (商業)	玉造工業 (工業)	5校
統合		大子第一・大子第二 大子清流(農業, 総合学科)	江戸崎・江戸崎西 江戸崎総合(総合学科)	松丘・高萩工業 高萩清松 (総合学科) 大宮・大宮工業 常陸大宮 (普通,工業) 里美 太田第二の分校	本校は 5校減
定時制課程・通信制課程		水戸南〔通信制〕 単位制導入	鹿島灘〔全日制〕 定時制に改編 鉾田第一〔定時制〕 募集停止		定時制課程 単位制高等学校 1校

平成10年度に、牛久栄進高等学校は全日制課程の単位制を導入し、八千代高等学校は総合学科に改編した。

## 4 聴取した意見等についてのまとめ

### (1) 新しいタイプの県立高等学校についてのアンケート調査の結果

#### 【 調査の概要 】

##### 1 目的

県立高等学校再編整備の基本計画に基づき前期実施計画で設置した新しいタイプの高校の新入生及びその保護者から意見を伺い、後期実施計画策定の参考資料とする。

##### 2 対象校及び対象者

###### (1) 対象校(7校)

ア 全日制単位制高等学校：日立第一 H16，太田第一 H15，水海道第一 H16，<sup>1</sup>小瀬 H15

イ 総合学科の高等学校：<sup>2</sup>太子清流(森林科学科を除く。) H16，鉾田第二 H16，取手第一 H15

1：連携型中高一貫教育校 2：太子第一と太子第二との統合による新校 は設置年度

###### (2) 対象者

対象校の平成16年度第1学年生徒及びその保護者

##### 3 実施時期

平成17年1月に実施

##### 4 主なアンケート調査内容

(1) 志願時における新タイプの学校の認識

(2) 当該校を志望した理由

(3) 当該校で充実していると思う教育活動

(4) 当該校の教育活動への満足度 など

##### 5 実施方法

(1) 生徒に対しては、各HRでLHR等を利用して実施した。

(2) 保護者に対しては、生徒を通して各家庭で回答してもらい回収して実施した。

#### 【 アンケート調査の結果 】

##### 1 回答者数等

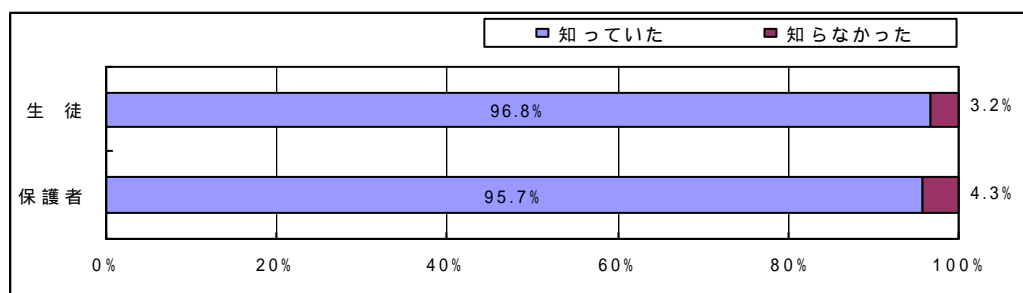
(人)

	対象者数	回答者数	回答率
生徒	1,602	1,546	96.5%
保護者	1,602	1,151	71.8%
計	3,204	2,697	84.2%

##### 2 結果の概要

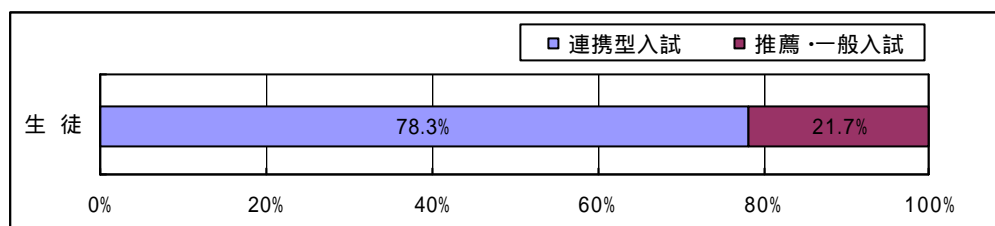
###### (1) 志願時における新タイプの学校の認識

質問項目：「志願するにあたって、この学校が新しいタイプの学校であることを知っていましたか。」



小瀬を除く6校の合計(生徒数：1,463人,保護者数：1,081人)

## 小瀬高等学校入学者の受験した選抜方法



入学者数：83人（提携型入試：65人，推薦・一般入試：18人）

## （2）志望した理由（複数回答，上位5位まで掲載）

### ア 生徒

	順位	項目 ( )内は各高校の回答者に占める割合
日立第一	1	単位制の導入により，自分の興味・関心，進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(49.7%)
	2	大学教育につながる高度な科目を学ぶことに魅力を感じたから(47.2%)
	3	通学時間が比較的短いから(37.2%)
	4	学校説明会に参加して新しい取り組みに魅力を感じたから(28.1%)
	5	親にすすめられたから(23.3%)
太田第一	1	通学時間が比較的短いから(24.1%)
	2	単位制の導入により，自分の興味・関心，進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(23.7%)
	3	大学教育につながる高度な科目を学ぶことに魅力を感じたから(15.7%)
	4	親にすすめられたから(11.8%)
	5	その他（学力のレベルが合っている。部活動が充実している。など）(9.0%)
水海道第一	1	通学時間が比較的短いから(21.7%)
	2	単位制の導入により，自分の興味・関心，進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(19.8%)
	3	大学教育につながる高度な科目を学ぶことに魅力を感じたから(17.1%)
	4	親にすすめられたから(12.8%)
	5	少人数授業が多く，きめ細かな学習指導を受けられるから(7.2%)
小瀬	1	就職に有利だから(19.6%)
	2	通学時間が比較的短いから(16.8%)
	3	在学中に色々な資格がとれるから(13.0%)
	4	提携型入学者選抜(簡便な入試)だから(提携型入学者選抜入学者のみ)(11.4%)
	5	単位制の導入により，自分の興味・関心，進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(8.2%)
大子清流	1	地元の高校だから(23.1%)
	2	通学時間が比較的短いから(21.1%)
	3	二次次になるときに，自分の興味・関心，進路希望に応じて「系列」を選択できるから(16.0%)
	4	自分の興味・関心，進路希望に応じて，普通科目や専門科目を幅広く選択できるから(11.3%)
	5	在学中に色々な資格がとれるから(5.3%)
鉾田第二	1	自分の興味・関心，進路希望に応じて，普通科目や専門科目を幅広く選択できるから(53.2%)
	2	二次次になるときに，自分の興味・関心，進路希望に応じて「系列」を選択できるから(38.1%)
	3	就職に有利だから(16.9%)
	4	通学時間が比較的短いから(14.5%)
	5	大学等へ進学したいから(10.1%)
取手第一	1	自分の興味・関心，進路希望に応じて，普通科目や専門科目を幅広く選択できるから(20.2%)
	2	在学中に色々な資格がとれるから(19.7%)
	3	通学時間が比較的短いから(14.8%)
	4	施設・設備が充実しているから(10.2%)
	5	二次次になるときに，自分の興味・関心，進路希望に応じて「系列」を選択できるから(8.9%)

イ 保護者

	順位	項目 ( )内は各高校の回答者に占める割合
日立第一	1	大学教育につながる高度な科目を学ぶことに魅力を感じたから(65.4%)
	2	単位制の導入により,自分の興味・関心,進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(63.0%)
	3	通学時間が比較的短いから(46.9%)
	4	学校説明会に参加して新しい取り組みに魅力を感じたから(42.2%)
	5	少人数授業が多く,きめ細かな学習指導を受けられるから(41.7%)
太田第一	1	単位制の導入により,自分の興味・関心,進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(26.6%)
	2	通学時間が比較的短いから(21.8%)
	3	大学教育につながる高度な科目を学ぶことに魅力を感じたから(18.2%)
	4	少人数授業が多く,きめ細かな学習指導を受けられるから(10.4%)
	5	あなたがお子さんにすすめたから(9.4%)
水海道第一	1	単位制の導入により,自分の興味・関心,進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(24.0%)
	2	通学時間が比較的短いから(19.5%)
	3	大学教育につながる高度な科目を学ぶことに魅力を感じたから(15.2%)
	4	少人数授業が多く,きめ細かな学習指導を受けられるから(11.6%)
	5	学校説明会に参加して新しい取り組みに魅力を感じたから(8.9%)
小瀬	1	通学時間が比較的短いから(18.6%)
	2	就職に有利だから(13.1%)
	3	美和・緒川・御前山の三中学校とカリキュラムやTT授業・行事などで連携・交流を深める連携型中高一貫校だから(12.6%)
	4	単位制の導入により,自分の興味・関心,進路希望に応じて幅広く選択科目を選択できるから(12.0%)
	4	在学中に色々な資格がとれるから(12.0%)
大子清流	1	地元の高校だから(23.3%)
	2	通学時間が比較的短いから(21.8%)
	3	二年次になるときに,自分の興味・関心,進路希望に応じて「系列」を選択できるから(17.0%)
	4	自分の興味・関心,進路希望に応じて,普通科目や専門科目を幅広く選択できるから(16.0%)
	5	在学中に色々な資格がとれるから(5.3%)
鉾田第二	1	自分の興味・関心,進路希望に応じて,普通科目や専門科目を幅広く選択できるから(23.1%)
	2	二年次になるときに,自分の興味・関心,進路希望に応じて「系列」を選択できるから(15.7%)
	3	通学時間が比較的短いから(14.7%)
	4	在学中に色々な資格がとれるから(10.2%)
	5	学校説明会に参加して新しい取り組みに魅力を感じたから(9.5%)
取手第一	1	自分の興味・関心,進路希望に応じて,普通科目や専門科目を幅広く選択できるから(26.7%)
	2	在学中に色々な資格がとれるから(19.7%)
	3	通学時間が比較的短いから(14.0%)
	4	二年次になるときに,自分の興味・関心,進路希望に応じて「系列」を選択できるから(9.7%)
	5	施設・設備が充実しているから(6.3%)

(3) 充実していると思う教育活動(複数回答,上位5位まで掲載)

ア 生徒

	順位	項目 ( )内は各高校の回答者に占める割合
日立第一	1	部活動(74.7%)
	2	学校行事(白堊祭,体育祭,芸術鑑賞等)(58.7%)
	3	国際交流(イギリス海外研修等)(57.6%)
	4	授業の内容(52.1%)
	5	白堊タイムの授業(大学見学会,HRセミナー等)(50.3%)
太田第一	1	部活動(27.1%)
	2	授業の内容(17.4%)
	3	進路ガイダンスなどの進路指導(9.9%)
	4	自分なりの時間割を作るシステム(9.3%)

	5	少人数の授業(8.3%)
水海道第一	1	少人数の授業(23.6%)
	2	部活動(17.2%)
	3	進路ガイダンスなどの進路指導(11.3%)
	4	授業の内容(11.1%)
	5	二人担任制(10.9%)
小瀬	1	修学旅行(13.9%)
	2	多様な資格取得の指導(11.5%)
	2	国際理解教育(オーストラリア派遣等)(11.5%)
	4	文化祭などの学校行事(11.0%)
	5	進路ガイダンスなどの進路指導(キャンパス見学, 就業体験等)(10.0%)
大子清流	1	進路希望に応じて系列を選べるシステム(17.3%)
	2	文化祭などの学校行事(12.7%)
	3	修学旅行(11.1%)
	4	部活動(9.6%)
	5	資格取得の指導(8.7%)
鉾田第二	1	自分なりの時間割を作れるシステム(21.5%)
	2	特色ある選択科目(11.4%)
	3	文化祭などの学校行事(10.6%)
	4	部活動(10.0%)
	5	少人数の授業(習熟度別授業)(8.1%)
取手第一	1	資格取得の指導(27.6%)
	2	自分なりの時間割を作れるシステム(23.5%)
	3	特色ある選択科目(14.4%)
	4	部活動(5.6%)
	4	文化祭などの学校行事(5.6%)

## イ 保護者

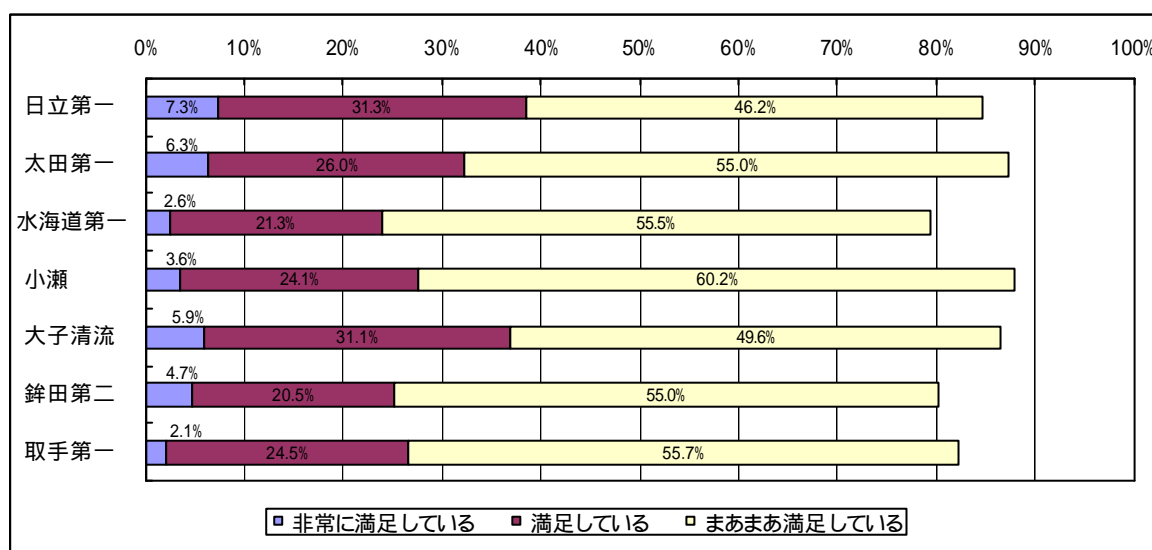
	順位	項目 ( )内は各高校の回答者に占める割合
日立第一	1	部活動(78.2%)
	2	白壁タイムの授業(大学見学会,HRセミナー等)(70.6%)
	3	学校行事(白壁祭, 体育祭, 芸術鑑賞等)(62.6%)
	4	進路ガイダンスなどの進路指導(58.3%)
	5	授業の内容(49.8%), 国際交流(イギリス海外研修等)(49.8%)
太田第一	1	部活動(24.8%)
	2	授業の内容(16.1%)
	3	自分なりの時間割を作れるシステム(14.0%)
	4	進路ガイダンスなどの進路指導(12.5%)
	5	少人数の授業(11.9%)
水海道第一	1	少人数の授業(26.9%)
	2	二人担任制(18.5%)
	3	部活動(14.1%)
	4	進路ガイダンスなどの進路指導(10.1%)
	5	授業の内容(8.0%)
小瀬	1	多様な資格取得の指導(18.3%)
	2	進路ガイダンスなどの進路指導(キャンパス見学, 就業体験等)(14.8%)
	3	三中学校との連携・交流(12.4%)
	4	少人数の授業(10.7%)
	5	自分なりの時間割を選べるシステム(10.1%)
大子	1	進路希望に応じて系列を選べるシステム(26.0%)
	2	部活動(11.0%)

清流	3	文化祭などの学校行事(10.3%)
	4	資格取得の指導(9.6%)
	5	特色ある選択科目(8.9%)
鉾田第二	1	自分なりの時間割を作れるシステム(23.6%)
	2	キャリア・アドバイザーの配置(13.8%)
	3	特色ある選択科目(11.9%)
	4	資格取得の指導(9.3%)
	5	「産業社会と人間」の授業(7.7%)
取手第一	1	自分なりの時間割を作れるシステム(23.5%)
	2	資格取得の指導(22.0%)
	3	特色ある選択科目(16.8%)
	4	少人数の授業(習熟度別授業)(7.2%)
	5	進路ガイダンスなどの進路指導(6.6%)

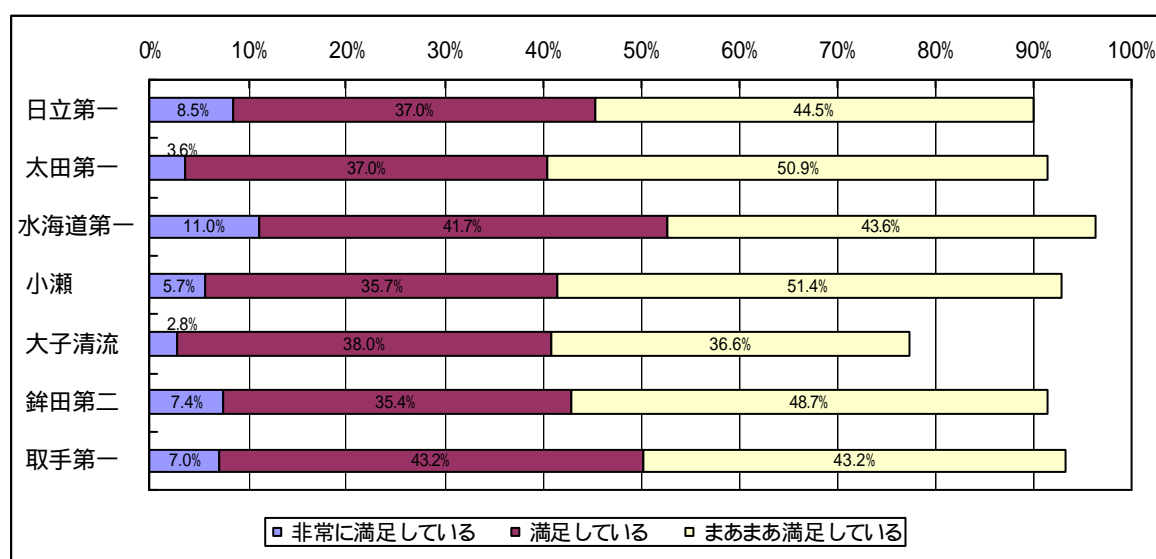
#### (4) 教育活動への満足度

##### ア 学校別

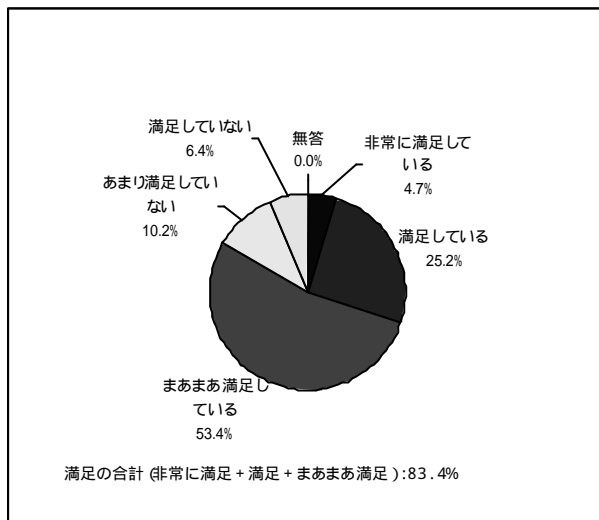
##### (ア) 生徒



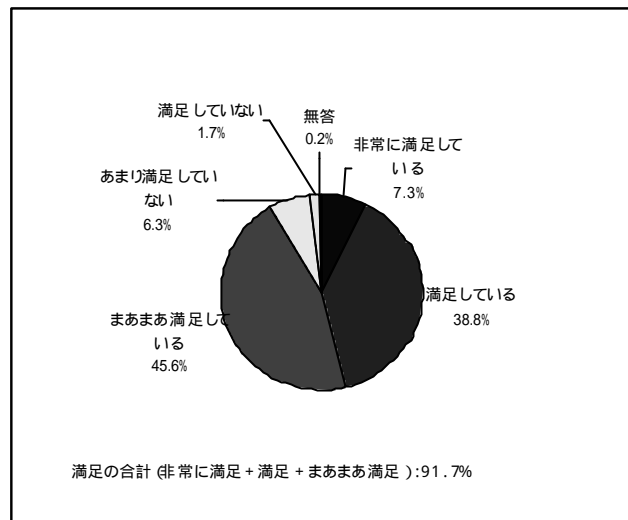
##### (イ) 保護者



ア 7校全体  
(ア) 生徒



b 保護者



3 新しいタイプの学校づくりに関する主な意見

(1) 生徒からの主な意見

単位制	少人数の授業を増やしてほしい。 もう少し科目が選択できるようになれば良い。 複雑なので、情報がしっかり伝わる学校が良いと思う。
総合学科	系列を増やしてほしい。 1年次から将来の進路を決めることは難しいので、2年次から履修計画をつくれる制度。 2年次のクラス編成を系列ごとにしてほしい。 幅広い資格取得ができる学校。

(2) 保護者からの主な意見

単位制	選択科目を増やして欲しい。 3年次は大学入試に直結するものであって欲しい これからが楽しみな学校。 中高一貫教育校の入試は今までのように行った方がよい。
総合学科	総合学科は現在の時代、風潮に反映したものであると思う。 大学受験に対応できる学力を身につけさせてほしい。 資格取得の指導に期待している。 系列の選択に固執して、普通教科の学力が劣らないようにして欲しい。

【 考察 】

志願にあたって、ほとんどの生徒やその保護者は、志願校が新しいタイプの学校であることを理解した上で受験していることから、それぞれの学校の特色を生かして学びたいという意欲を持った生徒が入学していることがうかがえる。

また、生徒やその保護者のさまざまな学習ニーズに応じて展開している各学校の教育活動については、生徒の83.4%、保護者の91.7%が満足と回答していることから、大多数の生徒やその保護者が、新しいタイプの学校の取り組みに満足し支持していることがうかがえる。

## ( 2 ) 県立高等学校の再編整備についての意見聴取の結果

後期実施計画策定に当たって、検討の参考とするため、平成 17 年 3 月に、有職者、中学校・高等学校の校長、保護者から、新しいタイプの学校の設置や統合など、活力と魅力ある多様な学校づくりなどについて、次のとおり意見を聴取した。

### ア 高校再編整備計画の策定について

社会の変化や人口減を考えると、今後を見据えて、今後 10 年間は統合を含めた再編を、果敢に進めていく必要がある。  
世の中は変わってきているが、高校は変われなかった。今、再編整備で変わろうとしている。大きな改革をしていく必要がある。  
今までの再編計画は成功していると考えている。これまでの基本的な方向は変えないでこのまま進めてほしい。  
再編整備などは、避けて通れない。社会の流れに沿った一定の対応は必要である。  
後期実施計画の策定に当たっては、前期実施状況や中学校卒業生数予測の変化等に留意した修正や微調整が必要である。  
つくばエクスプレス開通ともなう人の流れの変化への対応が必要である。  
中卒者数の今後の減少状況を見てみると、今の再編整備計画では、生徒減の現状にとても対応しきれないので、もっと再編整備を大胆にスピードアップしていく必要があると思う。  
小規模校では、教員も生徒もやる気がなくなるし、部活動なども十分に活動できない。そこに入った生徒たちがかわいそうである。  
学校は成人になるための訓練の場でもあることから、訓練の多様性を確保する観点に立てば、小規模校であっても、専門性に特化していればいいのではないかと思う。  
社会の変化が激しいのはわかるが、目先の変化にとらわれすぎないで、教育の原点を考えながら再編を進めてほしい。  
社会の変化に対応することを意識し過ぎることはいかなものか。

### イ 活力と魅力ある多様な県立高校づくりについて

#### (ア) 新しいタイプの学校の設置について

##### a 単位制高校

単位制導入に当たっては、すでに単位制を導入した学校の状況を見る必要がある。  
A タイプ、B タイプというように、これまでに設置した単位制とは異なるタイプの単位制があってもよいと思う。  
高校以上では、学年や先輩後輩を意識しないで学習できる環境がほしいので、単位制はいいと思う。また、単位制は、必要な単位が取れていない場合、もう一度やり直しができるのでいいと思う。

##### b 総合学科の高校

自分が高校の時は、進路や自分の存在意義など、何も考えていなかった。卒業して初めて考えた。その意味では、入学後にガイダンスをしっかりやって進路を考えることができる総合学科はよい。  
大半の子どもが普通科を希望しているが、これは進路判断の先延ばしの可能性がある。その対応としての総合学科は理想的な教育形態である。  
まだ進路の方向性が定まらず、とりあえず普通科に進学する生徒にとって、総合学科は必要性が高い。  
総合学科は、どんな成果(進路)につながっていくかが大事である。  
総合学科は設置後年数も少ないため、その機能を十分に発揮し切れていないような気がする。生徒の実態にフレキシブルに対応できる総合学科は、今後さらに重要になることが予想される。

##### c 中高一貫教育校

中高一貫教育は、教育理念の実現に向けて 6 年間を見通した教育ができるので、中高一貫教育校の設置には賛成である。  
都市部においても、進学対応の中高一貫教育校があってもよいと思う。  
中高一貫教育の中等教育学校については、県としても、作ってもよい時期に来ていると思う。  
バラエティに富んだ高校をラインアップする必要がある。県立高校だけの切磋琢磨ではなく、私立高校との競争に打ち勝てる環境の整備が必要であり、今後、中高一貫教育は避け

ては通れないと思う。

中等教育学校は、義務教育の中学校と義務教育でない高校を接続することで課題が多いかもしれない。

6年間一貫ということは閉ざされた社会になる不安もある。

d その他

東京都のエンカレッジスクールのような趣旨の学校づくりも取り入れてみてはどうか。

「共生・共育」の理念のもと、高校に養護学校の分校が併設されている県もある。本県でもその意義や可能性について検討してはどうか。

生徒にとって、わからない授業を聞いているのは苦痛であるので、学んで楽しい学校づくりが大切である。

人間を教育するのは学校である。体験学習を多くして、生きるための基礎的な力を身に付けさせてはどうか。

インターンシップやプレカレッジなどにより、社会や他機関との接点を体験できるようにすることが必要である。

(イ) 魅力ある学科の設置について

地域特性に合わせた専門学科の配置に心がけてほしい。

水戸市内には、産業と結びついた学校があってもいいと思う。例えば、環境、エコロジー、バイオテクノロジーなどに興味・関心を持つ中学生もいるので、これらに関連した学科をもつ高校があってもいい。

中学生の進路希望調査の結果を、今後の学科の配置を考える上で十分に参考にしてほしい。普通科であっても職業選択の時期が必ず来るので、職業選択を意識させる教育が重要である。

専門学科の高校では進学できないというイメージがあるので、進学の必要性を感じた生徒が進学できる方策をとれるとよい。

高校からさらに上級学校への進学を考える生徒が多くなっていることへの対応を考えるとよい。

(ウ) 県立高等学校の適正規模・適正配置について

a 統合

統合対象校の個々の地域における実情や学校設立の事情などの背景を考慮しながらも、県全体を考えて検討を進めてほしい。

再編、特に統合については、学校と地域の実情に気を遣いすぎては、思い切ったものはできない。

統合は、例外なしに行うべきである。

男女共学を一層進めるために、一高、二高の統合も視野に入れてほしい。

統合校の伝統の良さができるだけ受け継がれるよう、卒業生の意見を十分に聴く配慮が必要である。

統合後の新しい学校については、社会の情勢や中学生の進路希望等を勘案して、学科や新しいタイプの学校の配置についての検討を進めてほしい。

統合による総合学科等を各通学区に配置した方がよい。

統合により生じる跡地・校舎などは貴重な資源であるため、有効に活用する方策を検討することは重要な課題だと思う。

b 適正配置

単位制普通科、総合学科、中高一貫教育校、定時制・通信制の配置を通学区内でバランスよく実施して、生徒や保護者の選択の幅を広めていただきたい。

各通学区に一つでも総合学科、単位制を配置し、生徒の選択肢を狭めないようにしてほしい。

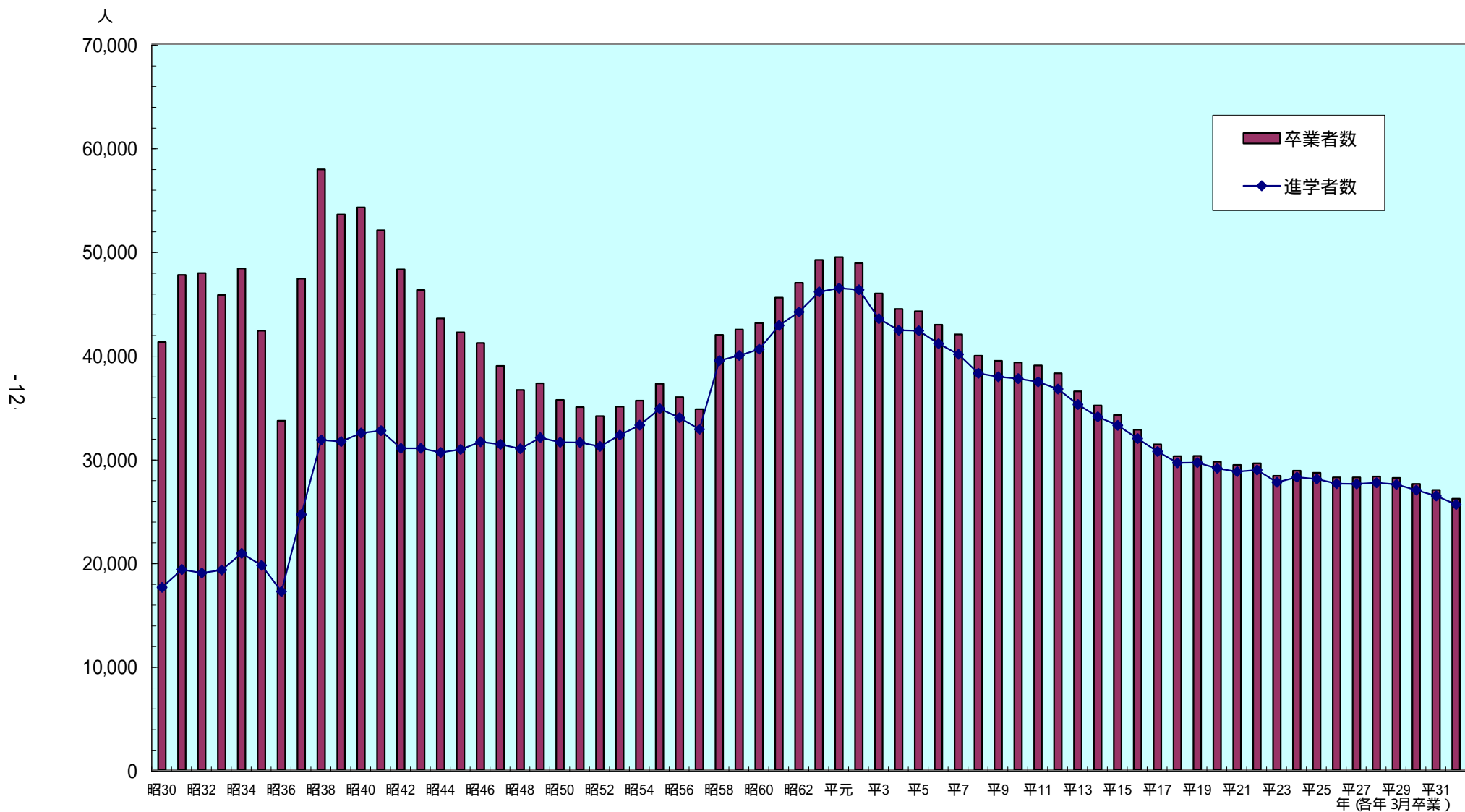
特色ある学校を、通学距離・手段を考慮しながら全学区に設置できたらいい。

(I) 定時制課程の整備について

定時制課程の配置に当たっては、交通の利便性を考える必要がある。

定時制単位制高校の設置に当たっては、フレックススクールとして設置した鹿島灘高校の状況の推移を見守る必要がある。

## 5 茨城県中学校卒業生数及び高等学校等進学者数の推移



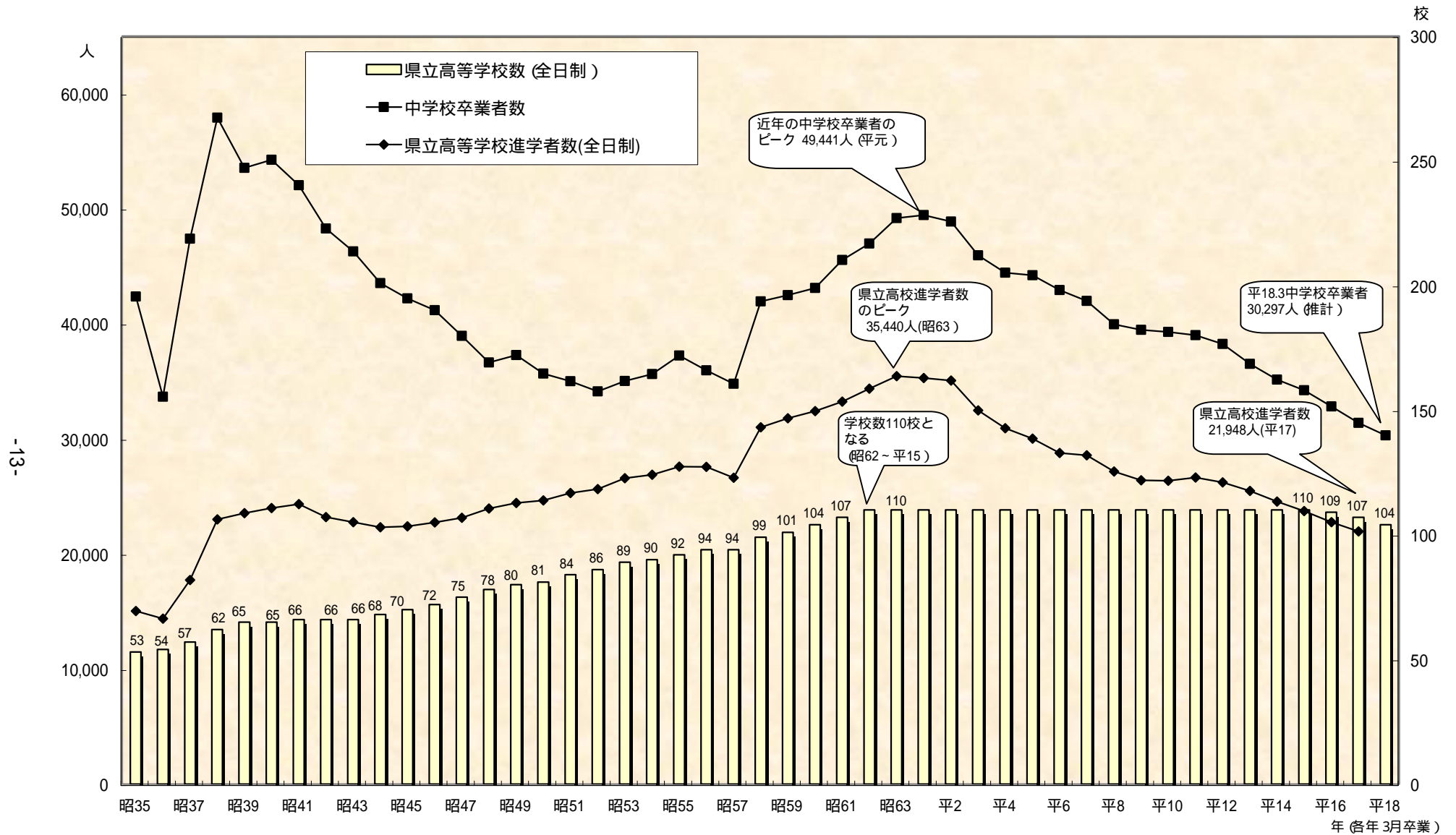
### 備考

平成17年3月以前は、実数である。(データは「教育庁企画広報室 教育調査報告書」による。)

平成18年3月以降の卒業生数は、平成17年4月1日現在の常住人口数のまま中学校を卒業すると仮定した。(社会増減は考慮していない。データは「企画部統計課 茨城県常住人口調査結果」による。)

平成18年3月以降の進学者数については、卒業生の97.8%が進学すると仮定した。

## 6 県内中学校卒業生数・県立高等学校進学者数・県立高等学校数の推移



### 備考

県立高等学校数(全日制)は、募集校数である。(校数に、太田第二高等学校里美校は含まず。)

中学校卒業生数は、平成17年3月までは実績であり、平成18年3月は、平成17年5月1日現在の在籍者数に基づく推計である。

県立高等学校進学者数(全日制)は、入学者数である。